

築地市場でメキシコ産養殖クロマグロの入荷急増

2013/05/09

時事通信社が集計した築地市場4月の生鮮大物売場、輸入物の入荷本数は4507本で前年同月比約23%増加した。

このうちクロマグロは2318本と同比7・6倍に急増。主力のメキシコ産養殖物が1776本と前年同月(16本)に比べ大幅に増えた。スペイン産養殖物も「欧州市場の販売不振」(輸入関係者)から日本向けが見直され169本と1・8倍に増えた。

一方、天然物は「例年よりスタートが遅れて3月まで低調だった」(同)ギリシャ産の入荷が活発化し、329本と2・4倍に増えた。ただし、「全体の1割以上は養殖場からの脱出魚」(卸会社)とみられる。

メキシコ産養殖物の平均値は、セリが成立した723本(約40%)がキロ2531円と前年比17%安。セリ残品を含む実勢相場は中旬まで1700~1800円で推移していたが、輸入量が増えて潤沢入荷が続いた26日以降は状況が一転。大量のセリ残品が発生して1500円以下で売り急がれる場面もあった。

インド(ミナミマグロ)は天然のニュージー産が351本と前年比約43%減少。「昨年多かった漁場での操業がまだ始まっていないことが主な要因」(輸入業者)という。一方、豪州産の養殖物は昨年より2週間半早い8日から入荷がスタート。合計400本と4倍強に増加した。評価は「色目の仕上がりが不十分」(卸会社)と振るわず、取引値は2000円を下回った。

メバチは全体で1386本と44%減少。主力のインドネシア(バリ表示含む)産は、燃油高や同国の規制強化による操業見合わせ、低気圧による荒天などが影響して426本と30%以上の減少。缶詰などの加工向け需要が増えたスリランカ、フィリピン産なども大幅に減った。ベトナム産は、現地で漁獲はあったが「輸送コストが安く市況もよい北米市場に回った」(輸入関係者)ことで急減したもよう。これに対し、豪州産は374本と約20%増加。サイズも前月まで多かった小型が減り、中~大型が主体だったため人気を集め、高値は5500円と国内物を上回った。

キハダは49本(前年同月は140本)に減少。ベトナム、豪州、インドネシアなどからメバチと混載されて入荷した程度。昨年多かったフィリピン産は4本に急減、東ティモール産は途切れた。